

開墾成功式

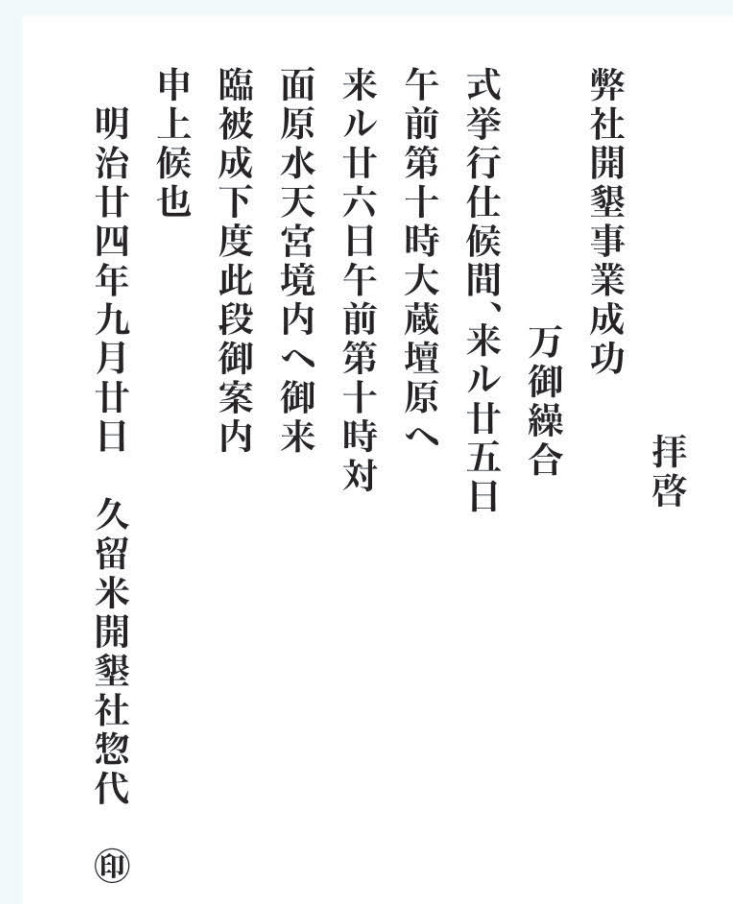
久留米開墾社から始まる郡山市とのつながりについてみてみよう。

久留米開墾社成功式

久留米開墾社は、明治23年(1890)に開墾地の無代払下が実現し、翌24年(1891)に開墾成功式を行った。第1区(大蔵壇原)は久留米説教所で、第2区(対面原)では水天宮で式典を行った。内務大臣品川弥次郎、福島県知事渡辺清、旧藩主有馬頼萬^{よりつむ}、奈良原繁(国営安積疏水開さく工事の責任者)、各村長や各開墾社総代などが出席した。成功式を挙げて、開墾社は解散となった。

その後の開墾地は、負債から開墾地を手放す人が出るなど、困難な状況が続いた。現状を打破するため、アメリカなどに出稼ぎへ出る者もいた。

開墾地は大地主や一般農民の手に渡って行き、戦後の農地解放直前では久留米入植者の子孫の所有は26%であった。



久留米開墾社より事業成功式招待状

宇倍神社文書 宇倍神社所蔵
久留米開墾社から鳥取開墾社へ宛てた開墾成功式の招待状。
これによれば、式は9月25日の午前10時から大蔵壇原で、
翌26日午前10時から対面原の水天宮境内で行われたのがわかる。
読点「、」を加えた。

久留米市との姉妹都市提携

昭和50年(1975)2月18日に久留米市長が郡山市を訪れ、久留米入植者の子孫と交流したことから、久留米市・郡山市の交流が進んだ。同年8月3日に郡山市と久留米市は姉妹都市となった。

久留米開墾資料館

一般財団法人久留米開墾報徳会からの寄付により
昭和53年(1978)に開館した資料館。久留米入植者の
資料を収集、保存、公開している。久留米水天宮脇。
画像提供・郡山市



日本遺産認定

平成28年(2016)に、猪苗代湖・安積疏水・安積開拓を結ぶストーリー『未来を拓いた「一本の水路」—大久保利通“最期の夢”と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代—』が日本遺産に認定された。令和4年(2022)に文化庁により総括評価・継続審査が行われ、継続認定されている。さらに、令和7年(2025)も引き続き継続認定された。

「日本遺産(Japan Heritage)」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの。ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としている。

「久留米水天宮」(久留米開墾社)、「水天宮」(対面原)や「宇倍神社」(鳥取開墾社)など姉妹都市ともつながりの深い場所も日本遺産「一本の水路」のストーリー構成文化財となっている。

猪苗代湖と郡山
画像提供・郡山市

